



2024.8.28

今日の流れ

学生と活動団体の交流会

- ・ 自己紹介
- ・ 参加者自己紹介タイム
- ・ 学生の現状について
- ・ 学生本音トーク！
- ・ 学生を受け入れるコツ
- ・ 意見交換会



- 特定非営利活動法人 アクションポート横浜
- **若者**と**NPO**をつないでまちを盛り上げる、様々な活動をしています。
- 2008年横浜市市民活動支援センター運営委員会を母体に設立。
- HP : <https://actionport-yokohama.org/>
- 所在地 : 横浜市中区山下町94 横浜中華街パーキング内



学生の現状

ボランティアに意欲的な学生は増えている！



一方で、活動したいが情報やきっかけがない学生も！
 （全体の7割が関心があるが、実際に活動できているのはそのうちの2割程度） * **5割が潜在的関心層**と言われる

ボランティア団体も増えている



横浜アクションマップ エリア別団体一覧

緑区・旭区・瀬谷区	青葉区	青葉区・都筑区・港北区
23 神奈川県立総合学習センター (緑区)	08 ありばコミュニティ・テラス (青葉区)	08 ありばコミュニティ・テラス (青葉区)
07 神奈川大学体育会サッカー部 (緑区)	27 青森 5 大学連携事業 (青葉区)	27 青森 5 大学連携事業 (青葉区)
27 みどりサンダプロジェクト (緑区)	14 日本体育大学学生友会研修部 (青葉区)	14 日本体育大学学生友会研修部 (青葉区)
10 サコラボ (緑区)	23 神奈川県立大学ISO学生委員会 (緑区)	23 神奈川県立大学ISO学生委員会 (緑区)
25 NPO法人MIKS (緑区・瀬谷区)	37 キララ置 (ひなののあそび場生き生き大塚) (緑区)	37 キララ置 (ひなののあそび場生き生き大塚) (緑区)
09 マッチメディア舞台 (緑区)	17 師範こども学習会 (緑区)	17 師範こども学習会 (緑区)
		20 横浜国立大学ボランティア団体 (緑区)
東区・戸塚区・港南区	神奈川	鶴見区・神奈川区・保土ヶ谷区
22 エコキャンパス研究会 (東区)	07 NPO法人まち×学生プロジェクトplus (神奈川区)	07 NPO法人まち×学生プロジェクトplus (神奈川区)
25 しんばしスマホ推進委員会 (東区)	15 かながわユースフォーラム (神奈川区)	15 かながわユースフォーラム (神奈川区)
22 国際協力団体キープ・ザ・スマイル (東区)	15 Agridge Project(アグリッジプロジェクト) (保土ヶ谷区)	15 Agridge Project(アグリッジプロジェクト) (保土ヶ谷区)
21 NPO法人JUNIKO Association (戸塚区)	27 神奈川人志 (保土ヶ谷区)	27 神奈川人志 (保土ヶ谷区)
19 NPO法人戸塚でらこや (戸塚区)	17 ほどこがや市民活動センター「アワーズ」学生チーム (保土ヶ谷区)	17 ほどこがや市民活動センター「アワーズ」学生チーム (保土ヶ谷区)
19 Piece of Nature (戸塚区)	16 ほどこがや理科館 (保土ヶ谷区)	16 ほどこがや理科館 (保土ヶ谷区)
16 せとものラボ (戸塚区)	09 保土ヶ谷通り1111 (KIKCAFE学生部) (保土ヶ谷区)	09 保土ヶ谷通り1111 (KIKCAFE学生部) (保土ヶ谷区)
19 明治学院大学 児童教育研究会 (戸塚区)	11 フグヨコ (保土ヶ谷区)	11 フグヨコ (保土ヶ谷区)
東区・金沢区・磯子区	磯子区	磯子区
13 新たなタウンプロジェクト 榎木ラボ (金沢区)	12 横浜国立大学学生ボランティア団体 Clover (磯子区)	12 横浜国立大学学生ボランティア団体 Clover (磯子区)
24 かながわ学生ボランティア連合 (金沢区)	20 横浜国立大学ボランティア団体 one by ONE (磯子区)	20 横浜国立大学ボランティア団体 one by ONE (磯子区)
14 関東学院大学建築材料力学研究室 (金沢区)		
27 キャンパスタウン金沢 (金沢区)		
10 せとものラボ (金沢区)		
16 せとものラボ (金沢区)		
24 横浜国立大学学生ボランティア団体 Clover (磯子区)		
12 横浜国立大学学生ボランティア団体 Clover (磯子区)		
20 横浜国立大学ボランティア団体 one by ONE (磯子区)		




- 大学生の地域参加が広がっています。
- 大学生になると地域を離れて学校に通うので地域で見つけにくく、大学が近くにないと接点はないと思います。
 - * 中高生までは見えるが、大学生・若手社会人は見えない
- コロナで環境も変わり、地域に目を向ける機会が増えたのは大人（就業層は特に）だけではありません。

ここから学生の現状を共有します！

2002年—2006年生まれの大学生



2002年 日韓W杯



2004年 米国産牛BSE問題
吉野家 牛丼の販売休止



2005年 愛・地球博が開幕

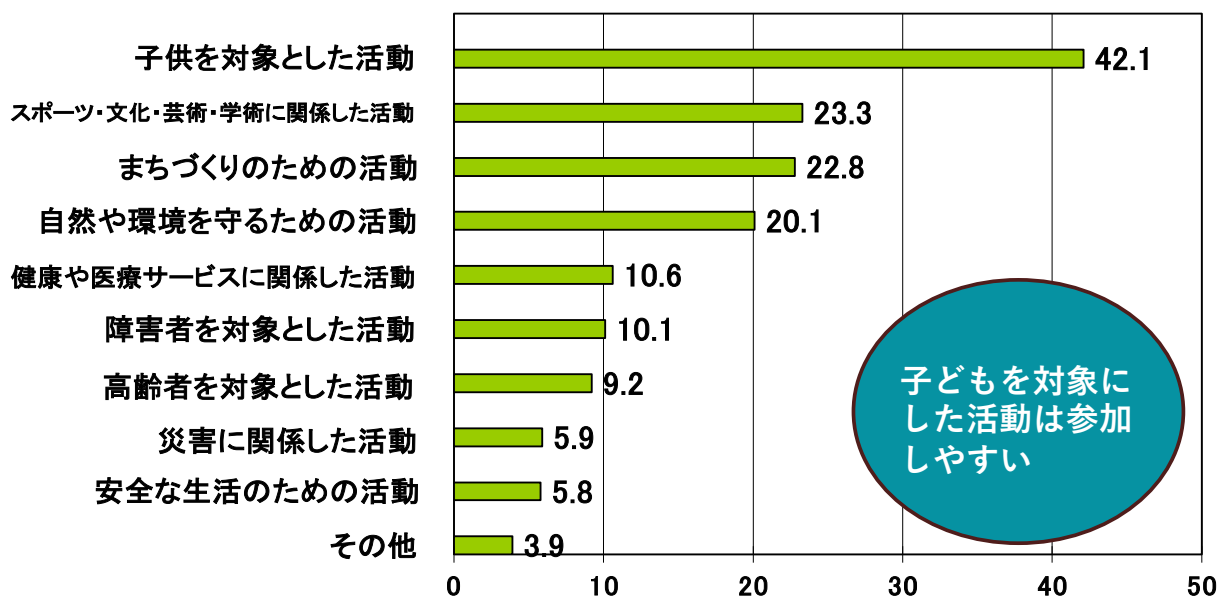


2003年 新幹線が品川に

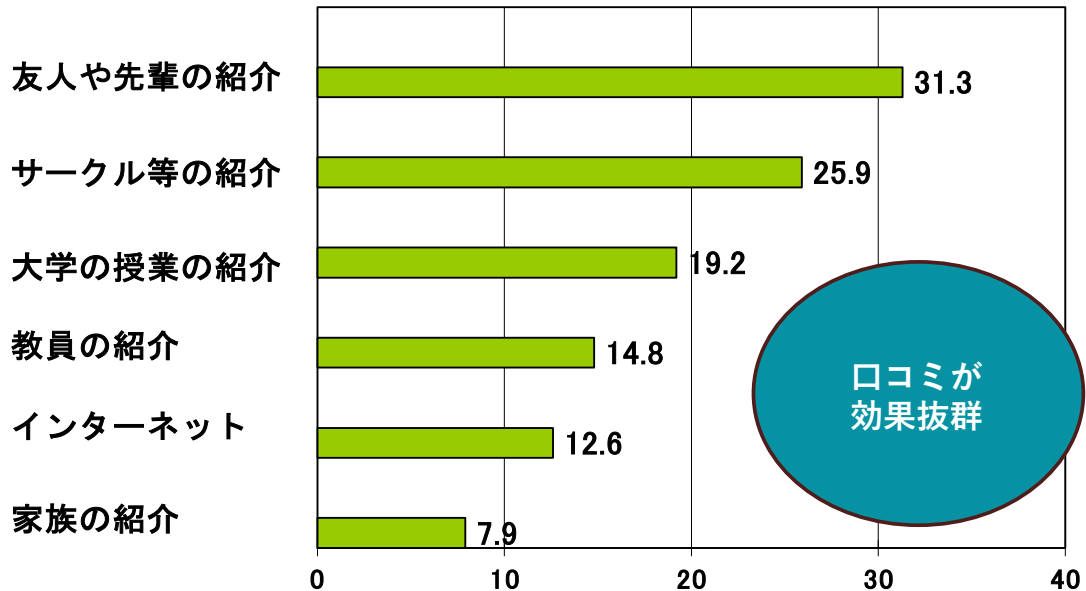


2006年 安倍政権発足

この1年間でボランティア活動をした学生の活動分野の割合



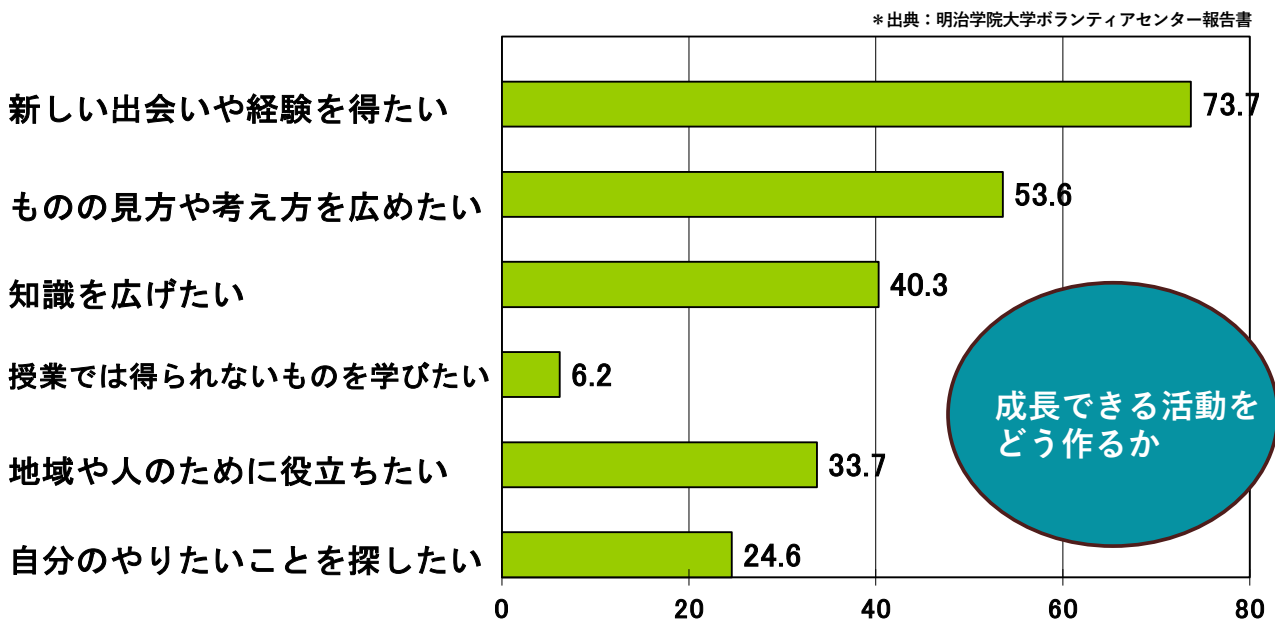
ボランティアの情報源：多くは友人・授業等から



口コミが
効果抜群

令和2年3月 大学生とのボランティア等に関する調査
(国立青少年教育振興機構)

活動動機：「成長意欲」がポイント！（貢献だけではない） 達成感・楽しさ・感謝がキーワード



成長できる活動を
どう作るか

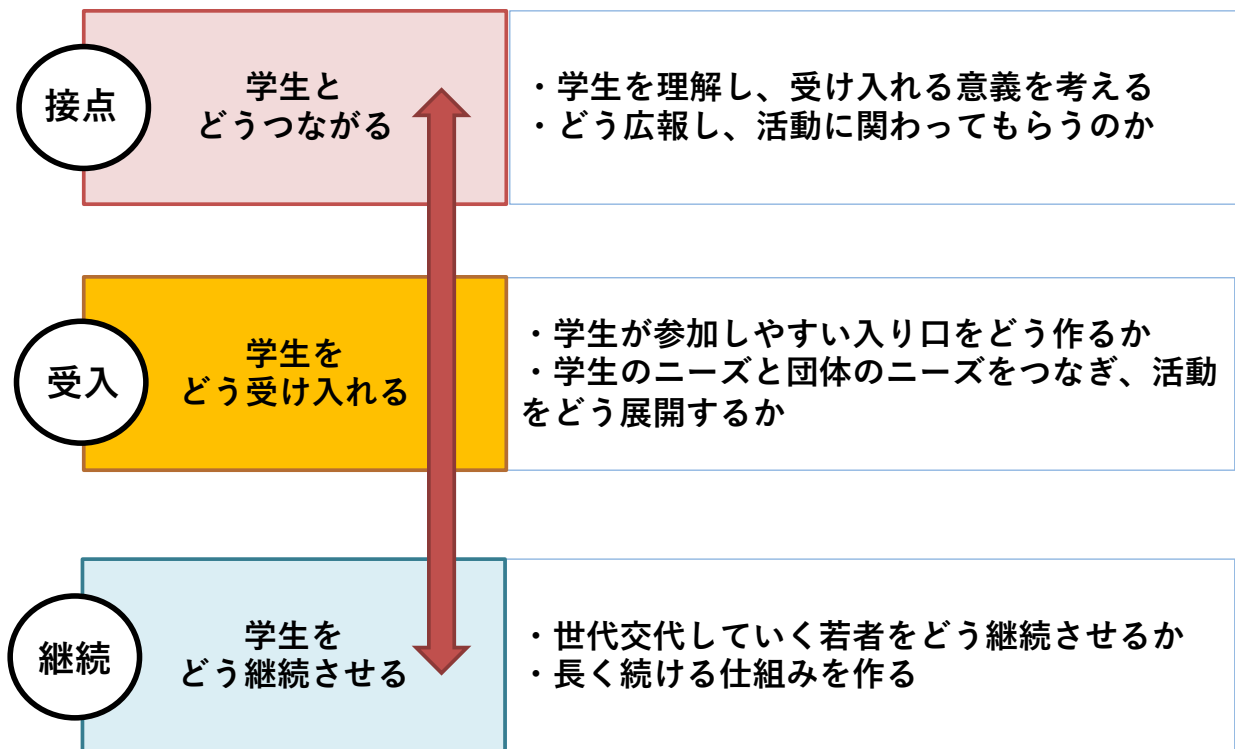
ボランティアの時間が限られる

学生を取り巻く環境もまた変わってきている

- 大学環境の変化
 - 大学の授業が出席重視になっている（7月・1月はテスト期間）
 - 就職活動が低学年化（1年からキャリアデザイン）
 - ボランティアの学習化（SDGs学習、サービスラーニング等）
- 生活環境の変化
 - コロナで友達もできにくい。孤独な学生。飲み会はなくていい
 - 趣味もネット社会で多種多様化。学生間も共感・共有がしにくい
- 経済的な側面もある
 - アルバイトで生活費を賄う学生（奨学金利用は約半数）
 - 下宿の学生も減る→通学時間がかかる



市民団体に学生を 受け入れるコツ



学生参加の価値

学生参加が周りに及ぼす影響は大きい



学生が参加したら、子どもたちや30代の若者が増えた！

→人や組織をつなげる“**接着**”効果

学生が参加することで新しい企画が生まれた！

→活動の“**成長促進**”効果

学生の参加がきっかけで、団体にボランティアが増えた

→巻き込みの“**緩衝**”効果

(結論) 無理なく受け入れをするのがおすすめ

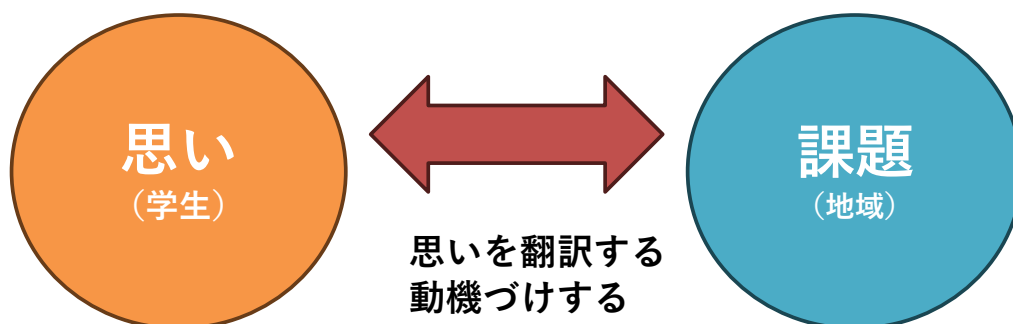
- 学生を巻き込まなくてはいけない、ことはない。
- 活動との相性もあるし、団体（地域）の特徴やタイミングもある。
- ポイントは学生を巻き込んで何したいのか。
団体内で合意を取るのはとっても大事！！

学生たちは共に活動する仲間と捉え、活動できるか。

地域と学生のギャップ



地域は課題解決から始まり、
学生は「私の思い」から始まる



そもそも学生も地域の一員、一緒に考えていけるか

1) 序盤は**関係構築**がポイント

2) やってほしいことではなく、
達成したいテーマを決める

3) **目標設定**を具体的に！

活動で大事なこと

活動序盤は**関係構築**はとても大事。

相互理解が活動を円滑に進める！



雑談やレクをするのも一つですね！